

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている</p>	<p>日常的に、散歩や買い物、地域行事への参加等に出かけ、普通の暮らしをしている。地域の中でその人らしく暮らす」と言う普通の事を認識し実践していくためにホームとしての指針を職員に浸透させるため、運営理念を改訂した。また、普段からミーティング等で「地域住民との交流とは」とどのような事、状況なのか話し合っている。</p>	<p>地域住民との交流の下で、その人らしく暮らすためにホームとして、職員として何を求められているのか、その人らしい暮らしとは何か継続的に考えて行きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>地域住民との交流の下で、その人らしく暮らすためにホームとして、職員として何を求められているのか、その人らしい暮らしとは何かを普段からミーティング等で話し合っている。また、入職時のオリエンテーションでは、当ホームの運営理念や業務目標、運営指針等について話している。</p>	<p>地域の方々にグループホームのすばらしさを伝えていきたい。また、サービスの質の向上を図って行きたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>開設にあたり、意見交換会等を通じグループホームについて役割や理念について説明した。開設後はホーム便りの発行やホームページの開設等行っている。地域の行事や研修会等に参加させて頂き、折に触れ、お話をさせて頂いている。</p>	<p>グループホームで暮らす事が特別な事ではないと言う事をご家族を含め地域の方々に分かって頂ける様、理解を得ながら実践して行きたい。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に買い物や散歩等に出かけ、地域のお話や挨拶を交わしている。畑の野菜を定期的に持って来て頂く方やお友達が遊びに来られる方もいらっしゃる。</p>	<p>気軽に立ち寄れる雰囲気づくりや職員の笑顔と挨拶を大切にして行きたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>開設より、地域の一員として交流に努めている。地域の子供さんを夏まつりに招待したり、子供会キャンプに招待されている。また、自治会の夏まつり等に参加している。クリーンデーなどの地域活動に参加出来るよう、地域との接点を出来る限り持つ様努力している。</p>	<p>地域に貢献して行きたい。そして、「グループホーム」、「りびんく紀水庵」と言うものを理解して頂き、多くの方に受け入れて頂ける様努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開設より4年が経過し、ホームが積み上げてきた認知症支援に関わる知識や実戦経験を地域の方々に還元出来るよう地域の研修会に参加したり発表の機会を得るよう働きかけている。また、随時、ホーム見学や介護相談等を受けている。		認知症や介護に関する啓蒙・啓発を行い、グループホームが地域の中に溶け込めるよう努めて行きたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価をサービスの質の向上のための再点検であり職員が業務に取り組む為の指針であると考え、自己評価は、全員職員で行っている。外部評価の結果を職員全員で検討し、改善計画書を作成し実践している。また、ご家族や運営推進会議の場でその報告を行っている。		自己評価項目を業務指針として取り組み、サービスの向上に努めて行きたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族は全員運営推進委員になって頂き、その他、行政や地域、有識者の方々に広くお願いし、参加頂いている。会議では、外部評価の結果方向やその後の改善計画の実施状況等について報告し、意見を頂いている。また、紀水庵の取り組みについて報告し意見を頂き、改善につなげている。		多くの方に参加して頂き、運営や業務の取り組みについて意見や要望を頂き、より良い生活支援ができるようホームの改善に努めて行きたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いており参加時には、意見を頂いている。また、毎月必ず、介護保険課の窓口に出向き、担当者や情報交換等を行っている。		地域密着型サービスとして、市町村との連携は重要であり今後情報交換等、関係づくりを行って行きたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行い権利擁護事業や成年後見制度について理解を深め、個々の職員が必要に応じて説明出来るようにしている。実際に利用されている入居者様が居られ、関わりを持ちながら内容や必要性を勉強している。また、ご家族にも制度の必要性等を説明している。		権利擁護事業や成年後見制度の必要性を理解して頂ける様ホームとしてご家族等の啓蒙・啓発に取り組んでいきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇・拘束委員を中心に勉強会を行い高齢者虐待防止関連法に関する理解を深めながら、入居者様や高齢者を尊ぶ大切さを学び、全職員で防止に努めて行きたい。		管理者及び職員は、虐待が起きないように、また、見過ごす事がない様に注意を払い、防止に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に、ホームの理念やケアの到達点や取り組み、転倒に対するリスクや身体拘束に関する考え方、ターミナルケア含めた医療連携体制で対応可能な範囲について詳細に説明している。また、ご家族等の同意を得てから契約している。</p>	<p>ご家族等の疑問点や不安を解消出来る様十分に説明し、同意を得るようにしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者様本位の生活支援を行っている。その時々入居者様の不安、意見等は、各棟ごとに話し合い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。</p>	<p>入居者様の意思や意見を表出しやすい雰囲気づくりや働きかけを行って行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしがや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、担当職員より、その月の催し様子を撮った写真と近況報告を、毎月の行事やトピクスを載せた紀水庵だよりと一緒にご家族に郵送している。また、ご家族の来訪時にお話をしたり、遠方の方には、電話で相談したり、生活の様子や伝えていく。</p>	<p>ご家族との連絡等を密にし更なる情報の共有を図って行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、日常的にご家族等とのコミュニケーションを積極的に図っている。また、運営推進会議やイベント等を通じご家族間の親睦、交流を図ると共に意見や要望を出し易い雰囲気づくりを行っている。出された要望等は、管理者を交え、ミーティングで話し合い、改善策等を決定し、要望者に同意を得、実行している。</p>	<p>意見や要望は沢山あると思われるが、言い出せないのが実情と考える。ご家族の意見や要望は貴重であり、より良いホーム運営、サービスの質の向上を図っていく為に表出し易い雰囲気づくりや環境を整えて行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、日常的に職員とコミュニケーションを図っている。運営や業務に対する意見や要望がないか、問いかけたり聞き出す工夫をしている。また、月に1回の運営会議や各棟のミーティングに参加している。主任と週1回のミーティングを行い、報告・課題の検討の場を設けている。</p>	<p>より良いホーム運営、サービスの向上を目指して、職員の気付き、意見を大切にしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の生活リズムに合わせた対応が出来るよう柔軟な勤務体制をとっている。管理者や主任は、日勤のみとし入居者様の状態やペースの変化、職員の急な休みに対応できるようにしている。</p>	<p>職員の配置だけでなく、限られた人数で入居者様の状態やペースに合わせた、柔軟対応が出来るようになってきており、今後も安全確保を図りながら支援して行きたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に各棟職員を固定化し、馴染みの職員による生活支援やご家族との信頼関係が築けるようにしている。また、職員がやりがいを持ち継続的に勤務出来るような組織づくりや担当制、各種研修会参加等を行っている。</p>	<p>顔なじみの関係が継続的出来るよう、離職者の減少を図り、やりがいのある組織づくりやストレスの軽減を図って行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集に際して、性別・年齢等の制限は設けていない。物作り等、職員の得意な事を、ホームの活動に活かしてもらっている。職員のキャリアアップの為に研修参加・資格取得の勉強会、ボランティア活動等が可能となるよう勤務調整の希望に出来るだけ応じるようにしている。ホーム内に行事・レクレーション委員会、美化・感染対策委員会、食事・健康委員会、環境整備・営繕委員会、接遇拘束委員会、救急・災害対策委員会を設置している。職員に役割・責任を担ってホーム運営に参加してもらっている。</p>		<p>職員の特長を活かした業務や役割が持てるよう意見を出し易い職場の雰囲気づくりを行って行きたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>定期的な会議や研修の場で、人権を尊重すること、および実践としての言動の留意点を具体的に話している。また、契約書への記載や事務所に掲示して啓発に努めている。</p>		<p>外部研修等に多くの職員が参加出来る様、勤務体制等を調整して行きたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>オリエンテーションや他グループホームでの実習およびスーパービジョン制度を導入して、入職時の不安や悩み、紀水庵の運営方針や業務の在り方等学んでもらっている。また、技能評価票を作成し管理者、主任、当事者を交え技能に対する評価等行っている。内外の研修や勉強会等積極的に参加させている。</p>		<p>スーパービジョン制度を確立し、紀水庵の運営理念、指針等および組織文化を継承して行く事が出来る組織をつくりたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会及び古賀地域支援連絡会「こだま」の会員である。こだまの会では、世話人として地域の医療・福祉サービスのネットワークづくりや研修会等の企画運営、こが福祉まつりへの参加等医療・福祉サービス啓蒙・啓発を行っている。また、グループホーム協議会では、1カ月おきの定期勉強会や全体研修会に参加している。他グループホームとの交流を図り、実習等も行っている。</p>		<p>外部研修等に多くの職員が参加出来る様、勤務体制等を工夫して行きたい。また、ホーム内の勉強会、伝達講習等も頻繁に行いたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパービジョン制度を実施し、スーパーバイザーや主任等からの職員・入居者様業務運営に関する定期報告を受けている。その中で、職員の不安や悩みを解消できるよう指導している。管理者は日頃から職員に心身の状況把握に努めており、必要な場合には話し場を持っている。不定期であるが食事会等行っている。</p>		<p>スーパーバイザー育成を図ると共に職員間のコミュニケーションを活性化し、指導や相談等行い易い雰囲気づくりを行って行きたい。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が当事者意識を持って役割と責任とやりがいを感じる事が出来る様、担当制や技能評価を実施している。また、技能に応じ昇給や昇進できる体制をとっている。</p>		<p>成功体験を感じる事が出来る業務システムの構築や企画、運営を行って行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族等から入居の相談があった時は、必ずご本人と契約前にお会いしている。ご挨拶や世間話をして心身の状態を確認すると共に少しでも顔を覚えて頂ける様努めている。</p>	<p>ご本人とお会いする機会を増やし、職員がご本人に受け入れられるような関係づくりを行ってきたい。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族等からの相談に対し、不安な事や困っている事など家族の苦労やこれまでの経緯について傾聴し、状況の把握に努めている。また、相談を重ねながら関係づくりを行うと共に入居される場合のアセスメントにつなげている。</p>	<p>管理者や担当職員は、ご家族の思いを受け止め、アセスメントに活かしている。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族からの情報やご本人の状態から、必要としている支援が何かを見極め、早急な対応が必要な方には、出来る限りの対応に努めている。普段より、地域サービスとの連携を図っており、地域包括支援センターや他の事業所の紹介やサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人やご家族の必要としている支援が何かを見極め、他のサービス事業所等との利用を含め、連携をとながら対応している。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご家族と相談し、ご本人にホームの雰囲気を感じて頂ける様、まず見学をお願いしている。また、ご家族とご本人が十分に納得して利用できるよう入居日の調整等行っている。入居後は状態観察しながら必要に応じご家族等に来訪して頂き、協力して頂いている。</p>	<p>ホームに馴染み安心して入居が出来る様、今後は、共用型デイサービスやショートステイ等の機能を活かして行きたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「ゆっくりいっしょにたのしく」をモットーに、人生の先輩である入居者様を尊び、支えあう感謝する気持ちを大切にしている。職員は何より先コミュニケーションの大切さを分かっており、コミュニケーションから生まれる入居者様の心身の活動性(言動)を受け止め、日々の生活を穏やかに楽しく過ごせる様努めている。</p>	<p>職員は、人生の先輩である入居者様とのコミュニケーションを大切に、尊ぶ心、学ぶ姿勢、感謝の気持ちを忘れずに生活して行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の生活の様子をお手紙や写真、来訪時にご家族にお伝えしている。解決しなければならない課題等、ご家族と相談し、協力を得ながら行っている。ご家族との二人三脚で入居者様の生活を支えていける様ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。		今後も、より良い支援が出来るようご家族との関係を築いて行きたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の家族への思いやご家族の本人への思いを職員は受け止め両者の思いが結びつくように、また、良好な関係を築けるように職員の役割が何かを考え努めている。		ご家族とご本人の関係を理解し、職員の役割や出来る事を考えより良い関係が築けるよう努めている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	入居前の生活習慣や関りを入居後も継続出来るように、かかりつけ医の受診や理美容院の利用、買い物や外出・外泊、友人・知人の来訪等支援している。		友人や知人等が来訪し易い雰囲気を創って行きたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間の相性や関係性を考慮し、食事の席や買い物、行楽やレクリエーションの配置や人選検討等の工夫を行っている。また、入居者様同士の関係が円滑に保たれるよう心身の状態や気分を把握し、情報の共有に努めている。		職員を含めた共同生活の場であり、それぞれにとって居心地の良い場所になるよう「個と集団と調和」を考えながら支援して行きたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のまま退居になられた方や新しい住居に移られた方等、時折、職員が訪問し、関係を大切にしている。		地域に親しまれるホームとして、関りを持ち続ける事が大切であると考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>二年程前から「センター方式」によるアセスメントに取り組んでいます。ご本人やご家族の表面的な声や状態だけではなく、ご本人の視点・真意を日頃の行動や表情から汲み取れるよう関係づくりを大切にしています。</p>	<p>センター方式の視点を大切にし、ご本人の希望や意向を汲み取れるよう努めています。また、アセスメントから、どのような支援が必要か職員で話し合い実践出来るよう努めています。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族にホームでの生活するうえで、これまでの生活歴等の把握の大切さ説明し、情報を提供して頂いている。また、ご家族の了承のもと、ケアマネージャーやサービス担当者から情報を収集している。</p>	<p>入居者様の生活歴や生活環境等やこれまでのサービス利用経過等の把握に努めている。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居後の生活リズムを把握するため、継続的にアセスメントをおこなっている。担当職員のみならず、他の職員も行動や表情からご本人の全体像の把握に努めている。</p>	<p>入居者様 1人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人の心身の状態やニーズ、ご家族の気持ちを大切にしたいアセスメントをおこない、穏やかに、楽しくより良い生活を送れるよう職員の関り方、より良い支援方法を確認しながらケアプラン作成を行っている。ケアプランに対する意見交換や1ヵ月ごとの定期モニタリング、カンファレンスを担当職員を中心に全職員で行っている。</p>	<p>入居者様が穏やかに、楽しくより良い生活を送れるようご本人やご家族の気持ちを大切にしながら、ケアプラン作成を行って行きたい。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランに対する意見交換や1ヵ月ごとの定期モニタリング、カンファレンスを担当職員を中心に全職員で行っている。また、ご家族やご本人の要望や入居者様の心身の状態変化やケアプランの達成状況等により不定期に見直しを行い現状に即したケアプランを作成・実行している。</p>	<p>アセスメント・ケアプラン・実施・評価・修正等確実に実行でき、入居者様がより良い生活を送れるよう質の向上に努めて行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状況や状態変化に対する職員の対応や考察。カンファレンスやご家族との話し合い等入居者様の生活がわかるよう記録し、職員間の情報の共有を図っている。		入居者様の生活や職員の取り組みがわかる生活記録を残して行きたい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして入居者様の負担となる受診や入院の軽減を図っている。入院の場合は、早期退院できるようにご家族や医療機関と協力調整しホームでの生活の継続を図っている。また、ご本人やご家族の状況に応じ通院や送迎等必要な支援を行なっている。		ホームでの継続的入居が出来るように、ターミナルケアを含め、ご家族、ご本人、医療機関等と連携し取り組んで行きたい。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者様が安心して地域での暮らしが継続出来るよう地域住民の方たちと日常にお話をしている。また、警察署や消防署にも定期的にお伺いし協力を依頼している。		入居者様の生活をより良いものにするために、地域の方々に協力して頂けるよう関係づくりをして行きたい。また、共用型デイサービス等の馴染みの関係を大切にしながらホーム機能を活かした支援が出来るよう関係機関の理解を得ながら努めて行きたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に地域の居宅支援事業所や介護保険施設等、古賀市の介護保険課を訪問し情報交換等を行っている。また、ご家族とご相談し、福祉在宅サービスのおむつ給付サービス等受けている。地域での催しに参加出来る様支援している。		ご本人やご家族に有意義なサービスや利用可能なものについて積極的に支援している。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	高齢者福祉課や地域包括支援センターと協力連携している。成年後見制度の利用や入退居に関する相談等行っている。		入居者様の生活をより良いものにする為に、今後も関係機関との協力連携をつよめて行きたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの連携医療機関を主に、入居前よりかかりつけ医がある場合にはご家族やご本人と相談の上、継続的利用をして頂いている。また、ホームでの生活で留意する事等必要な情報をお伺いしたりこちらの生活情報等必要な場合、書面を作成もしくは、同行しお伝えしている。		ご本人やご家族等の希望を大切に、納得が得られるかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する相談や診断、治療や生活支援等に関する指示や助言等が受けられる医療機関がある。		職員が相談したり入居者様が認知症に関する診断や治療を受けられる医療機関を確保し、支援している。
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携機関より週に1回来訪して頂き、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		連携医療機関の看護師と連携を取りながら日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、定期的に職員が見舞うようにしている。また、ご家族等と情報交換しながら医師とカンファレンスの機会を持ち、ホームでの対応可能な段階で早く退院できるよう支援している。		出来るだけ早期に退院できるように、医師や看護師、ご家族等と情報交換や相談に努めている。
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末に対する対応指針を大まかに定め、重要事項説明書に記載し、事業所が対応できる最大の支援方法をご家族に説明している。その時々々の状況や状態に応じご家族・医師・看護師等を交え方針を決定している。		ご本人の状態・状況に応じ、ご家族やかかりつけ医等と話し合いの場を持ち、情報を共有し方針を決定している。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した入居者様が継続的にホームで生活できるようご家族、医師、看護師等を交え、話し合いの場を持っている。三者が協力・連携を取りながらそれぞれの立場で出来る事を入居者様の状態の変化に応じ確認しながら取り組んでいる。		重度化や終末期の入居者様がより良く暮らして頂けるようかかりつけ医やご家族等と協力・連携し取り組んでいきたい。
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、暮らしやケアの継続が保たれるようこれまでの生活環境、支援内容、留意事項等情報を提供している。また、馴染みの職員が訪問に行くなどしている。		ご家族や関係機関職員等と情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限に出来るよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様を尊び自尊心を大切にしている。職員は、その大切さ・意味を理解し遵守している。常に朝礼や各棟ミーティングで話し意識向上を図っている。管理者及び主任等は、実践・理解できない職員には、業務の場面や個別面談で話しをしている。また、個人情報の守秘義務についても徹底するよう常に指導している。	職員が常に1人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの保護意識を持ち業務にあたる様徹底管理 指導して行きたい。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	着る服を選んで頂いたり、食べ物を選んで頂いたりしている。お替りをするかどうか、調味料をかけるかどうか等一人ひとりにお聞きするようにしている。何事につけ、入居者様の能力に合わせて尋ね方を工夫しながら質問の形で問いかけ、意思決定をして頂く場面を作っている。	ご本人の思いや希望を表せるように働きかけたり わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせる支援をして行きたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事等ホームのスケジュールを優先せず、入居者様のペースに合わせている。その日、その時のご本人の気持ちを尊重しながら個別性のある支援を行っている。また、買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	職員の都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お一人ひとりの生活習慣に合わせた支援を行い、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。ご本人の馴染みの理美容院でカットやパーマをしてもらっている。	今後も、その人らしい身だしなみやお洒落が出来る様に工夫 支援して行きたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片づけ等毎日入居者様と一緒に過ごしている。フリーメニューの日は、入居者様と相談しながら決めるようにしている。また、職員と入居者様は同じテーブルで楽しく食事出来る様雰囲気づくりを行っている。	食事は、入居者様にとって楽しみであり一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者様と職員と一緒に準備や食事、後片づけをしている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は入居者様の好みの嗜好品を日常的に楽しめるよう支援している。たばこやお酒を日常的にのまれる方は居られないが、コーヒーがお好きでご自分で作られ、一日に何杯も飲まれる方が居られる。	入居者様の好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人ひとりの排泄パターンや状況を把握し、さびげなくトイレ誘導を行い排泄を促している。トイレで排泄する事は、日常的な事と職員は理解しており オムツ等可能な限り使用していない。		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の生活習慣や希望、状態や状況にあわせ臨機応変に入浴して頂いている。入浴を嫌がられる入居者様には、声かけや対応の工夫、職員の連携等によって入浴支援を行っている。場合によっては足浴や清拭に切り替え、清潔を保てるようにしている。		1人ひとりの希望や状態、状況にあわせ入浴を楽しめるよう支援している。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣やその時の状態、状況に応じて日中の適度な活動やコミュニケーションを図り、生活リズムを整えると共に就寝に向けた穏やかなリズムが創れるよう取り組んでいる。		入居者様の生活習慣や状況に応じ、安心して休息出来るよう支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の「できること・できそうなこと」趣味や楽しみ」を把握し、動機づけや共同作業を通じ、食事づくりや手芸、洗濯物のたたみや掃除、買い物等得意な分野や楽しみ事など一人ひとりの力を発揮してもらえるよう仕事を頼み感謝の気持ちを伝えている。		楽しみや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの状態や生活歴を活かした役割を持てるよう支援して行きたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持されている方が数名おられる。その他の方についてはご家族と相談し、財布をお預かりしている。買い物等に行った時、財布を渡し、好きなものを選んで頂いたり、実際に金銭のやり取りをして頂いている。		職員は、ご本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の気分や天候や希望に応じて、買い物や理髪、受診や自宅訪問、行楽等日常的に出かけている。また、職員がその日の天候や入居者様の状態を考慮しお誘いし、散歩や庭でお茶を飲んだり、ドライブ等外出している。		職員は、一人ひとりのその日の希望や状態、気分によって外出出来る様支援している。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	ご本人の希望をご家族等と相談しながら職員が計画、日程調整をし、実現出来るよう取り組んでいる。最近は外食等を企画し行っている		心身の状態により、余り遠くまで行けない入居者様もおられるが、ご本人の希望を叶えられるようご家族と相談、協力を得ながら実現に向けて取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるようにしている。また、会話が他の入居者様に聞こえないよう場所に電話を設置している。		ご本人が自ら電話したり手紙のやり取りが出来る様支援している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪して頂いたご家族や友人等に再来して頂けるよう職員は、常に「穏やかで楽しい雰囲気づくり」を心掛けている。		そのホームの雰囲気は玄関先で判るもの、よい雰囲気づくりを常に心掛けたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇 拘束委員会をつくり 定期的に勉強会をしている。スピーチロックも含めて何が身体拘束にあたるか職員は理解している。また、拘束等が必要な場合には、書面により状況、状態対応策、期間をご家族等に説明し、承諾を得ている。また、状態に応じ「徘徊コール」を使用して出来る限りサイドレール等による拘束をしない取り組みを行っている。		今後も定期的な勉強会を行うと共に、状態の安定や安全に向けたケアの改善に努めたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	午後8時より午前7までは鍵をかけているが、日中は鍵をかけていない。外出しそうな様子の場合、止めるのではなく声かけをしたり一緒について行く。付き添いながらタイミングを図り声かけを行い帰庵する。必要に応じ、車を手配している。また、お1人での外出に対して近所の方より連絡を頂いたり地域の方に協力して頂いている。		地域の方にも「紀水庵の方かな？」と認識して頂いており、今後は緊急時等のネットワーク等、更なる理解・協力を得られるよう取り組んでいきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、リビングで入居者様の近くで家事や事務作業を行いながらさりげなく状況を把握し見守っている。夜間は、廊下のモニターやフットコールを使用すると共に2時間ごとに巡視している。夜間眠れない入居者様にはリビング等で職員が付き添い対応している。		職員が、24時間入居者様の状況や状態を把握しリスクを軽減出来る業務体制の改善・構築を行って行きたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各棟の入居者様の状況に応じて、ご自分で管理していただくもの、職員の保管管理が必要なもの、使用する時に注意が必要なもの等にわけて管理している。		職員の管理、見守りを徹底し、入居者様がより多く保管及び利用出来る様リスク管理を図って行きたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとり一人の心身の状態から、予測されるリスクを検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。また、日々のヒヤリハットを記録し、会議等で対策を検討している。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し事故原因の究明と今後の予防対策について検討し、ご家族への説明と報告を行っている。		入居者様の特徴を把握し、予測・予防のケアが実践出来る様、関り方やアセスメントを検討して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、応急手当や心肺蘇生の実技研修を行っている。また、夜間等の緊急対応についてマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		実際に生じた場合に迅速に対応できるよう、定期的に応急手当等の実技勉強会をホーム独自で行って行きたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	防火計画書を作成し、消防署の協力を経て非難訓練、避難経路の確認、誘導方法、消火器の使い方などの訓練や勉強会を定期的に行っている。また、ご家族や地域の自治会、消防団へ災害時の協力依頼を行っている。		日々の自主点検を徹底すると共に、防災に対する意識を高められるよう職員教育や地域に対する啓発活動を継続して行きたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ひとり一人の心身の状態変化を把握し、生活上で予測されるリスク、拘束をしない自由な暮らしを支援する為に生じるリスクについてご家族に具体的に説明し理解・納得を得られるよう努めている。		遠方に居られるご家族には、お手紙や電話による説明しか出来ず、状態変化を十分に説明できない事が多い、来訪して頂ける機会をつくれるよう理解を求めて行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、入居者様の普段の様子や状態を把握しており、顔色や食欲、状態の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、連携医療機関やご家族に連絡・相談している。状態により医療機関を受診している。		普段の様子との違いを把握できる観察力やご家族・連携医療機関との調整力を養えるよう管理者及び主任が実務指導して行きたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表をファイルに綴じ、職員が内容を確認しながら、毎食ごとに分封している。服薬時はご本人に手渡し、服用の確認をしている。また、状態変化等により薬の処方や用量が変更になった場合は、詳細を記録し職員間で伝達している。		薬の処方や用量が変更になった場合に、誤薬がないよう詳細を記録し確実に職員間で伝達・共有して行きたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日の水分摂取量の目安を取り決め、オリゴ糖やガムシロップ等を加え飲んで頂いている。散歩や家事等1日の中で適度に体を動かすよう取り組んでいるが、自然排便がスムーズに行かず便秘傾向の方が多く下剤を服用している。		下剤の使用量や頻度を軽減出来るように、食材の工夫や活動量等の検討をして行きたい。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・うがい・義歯の洗浄といった口腔ケアをおこなっている。個々の状態に応じ、職員が介助したり見守ったりしている。また、定期的に洗浄剤を使用している。定期的に歯科往診をして頂いている。		口腔ケアの重要性や方法論等を理解し、実践できるよう外部研修やホーム内勉強会を充実させたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事は1300~1500Kcalを水分は1ℓを基本としている。食事や水分の摂取状況を毎食ごとに確認表に記録している。定期的に体重測定を行い、必要に応じ食事を調整している。入居者様の好き嫌いやアレルギーを把握し調理時に考慮している。食欲が低下している場合等果物などで補食している。また、むせたり飲み込みが悪くなった方に対しトロミをつけたり刻んだり食べ易いように工夫している。また、管理栄養士に定期的に献立を点検してもらい専門的アドバイスを頂いている。		入居者様の食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保出来る様。また、一人ひとりの状態や習慣に応じた工夫が出来る様支援して行きたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し日々の感染予防に努めている。また、流行性の感染症に関する情報を収集し、勉強会を実施して予防と対策に努めている。		感染対策マニュアルの改訂や定期的な勉強会を行い、職員の感染症予防に対する意識を維持して行きたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・包丁などの台所まわり、冷蔵庫について掃除・消毒の手順・頻度・担当者を決めておりチェック表で実施を確認している。また、食材は、新鮮な物を使用するため常時入居者様と一緒に買い物に行っている。		今後も食中毒の予防の為、台所や調理用具等の衛生管理を徹底して行きたい。また、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めて行きたい。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の周囲に庭木や草花を植え、柵も低めにして圧迫感のないようにしている。玄関周囲には、植木鉢やプランターを置き、玄関前には箱庭をつくり観賞出来るようにしている。玄関内は、木製の下駄箱やくもりガラスにて優しい雰囲気を創っている。		今後も建物・玄関周りに少しずつであるが樹々を植え癒しの空間を創りご家族や近隣の人等が安心して出入り出来るよう工夫して行きたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適空間票を作成し、におい・音・ひかり換気等について、リビングやトイレ・廊下など2時間おきに職員が確認している。入居者様と一緒に昼ご飯を作ったり廊下やリビング等には、絵画や創作物、カレンダーや入居者様の置物を配置し季節を感じたり心が落ち着くような雰囲気づくりを行っている。		入居者様にとって、より良い生活空間とは何かを考え、不快な音や光に配慮し、生活感や季節感を採り入れて心地よく過ごせるよう日々改善して行きたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル、廊下のソファや玄関の腰掛、庭のテーブルセット玄関外のベンチなどに観葉植物や絵画を配置し、入居者様が思い思いに過ごせる空間を用意している。		今後も、独りになれたり気のあった入居者様同士で思い思いに過ごせるような場所を工夫改善して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのあるタンスや置物、テレビ等使用されていた物を出来る限り持って来ていただく様にしている。また、小物やご家族から届いた絵葉書等ご家族に継続的に持って来てもらっている。入居者様が居心地良く生活できるようにご本人とも相談しながら工夫している。		今後も、ご本人やご家族と相談しながら使い慣れた物や好みの物を活かして、心地よく過ごせるよう工夫して行きたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	快適空間票を作成し、においや換気等について、リビングやトイレ・廊下など2時間おきに職員が確認し臭いや換気に注意を払っている。また、各居室に湿温計を置き、外気温に留意しながら入居者様の状態を観察しながら調整している。		においや換気に努め、室温は外気温との差に配慮しながら入居者様の状況に応じて調整して行きたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、福岡県まちづくり条例に適合した高齢者に優しいつくりとなっており、バリアフリーで手すり等設置してある。また、入居者様の状態にあわせ食卓テーブルや椅子の脚を切ったり椅子を肘掛付きにしたりと安全に快適に自立した生活出来る様工夫している。		今後も、入居者様の心身の状態にあわせ安全で自立した生活が送れるよう工夫改善して行きたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の生活のなかで、わかりにくい事や物に対してどのように生活環境を調えるか。また、アセスメント等から状態を把握しご本人の力をどのように引き出すか、状況や状態の変化により混乱等生じた場合は、カンファレンス等で話し合い対応策を試みている。		入居者様1人ひとりの心身の状態を把握しながらわかる力を活かして、混乱等を予防し出来る限り自立した生活が送れるよう工夫改善して行きたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	サンデッキ車椅子でも庭に出られるようになっており庭には、樹々や花が植えてあり景色を眺めながらティータイムを楽しむ事が出来る。また、入居者様が花を植えたりプランターに野菜などを植えられている。隣接地に畑を借りており歩行状態が良い入居者様と一緒に野菜を育てている。玄関先には、箱庭があり涼みながら観賞できる。		今後も、入居者様が庭やサンデッキ等で安全に楽しく活動出来る様工夫改善して行きたい。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の思い： 職員は日々向上心を持ち、安心して生活できる空間づくりに努めています。 穏やかに楽しく過ごして頂けるよう努めています。 職員は、常に入居者様が心身ともに最良の状態を保てるよう努めています。

管理者の思い： 入居者様が安らぎと楽しみと安心を感じ生活して頂けるよう環境因子としての職員の言動は大きな影響を与えます。入居者様とのコミュニケーションが生活支援の原点であり、日々の交流から入居者様の心身の状態を知り、支援して行く事が重要だと考えます。入居者様が穏やかに楽しく安心して生活して頂くために職員がすべき事は何かを考え、日々取り組んでいます。